

タイトルの前に3行分改行<必須>

タイトルの前に3行分改行<必須>

タイトルの前に3行分改行<必須>

太字中央揃え

日本語の連体修飾節における時制保有型と時制欠如型

タイトルと名前の上に1行改行<必須>

太字中央揃え、姓と名の上に1文字スペース

杉浦 滋子

名前とキーワードの上に1行改行<必須>

キーワード: 日本語、連体修飾節、テンス、アスペクト、時制欠如

キーワードと要旨の上に1行改行<必須>

太字中央揃え

要旨

1字下げインデント

日本語連体修飾節に見られるテンス・アスペクト形式は、しばしば対応する文に見られるものとは異なっている。この点で、日本語の連体修飾節は、例えば印欧語の関係節と違いを見せる。本稿では、日本語の連体修飾節には時型と時制欠如型の二種類があると主張する。前者はテンス・アスペクト形式に関して対応する文と異ならず、発話時点に言及する副詞節と共起するが、後者はテンス・アスペクト形式に関して対応する文と異なり、発話時点に言及する副詞節と共起しない。また、時制をもつ文において非過去をあらわす「ル」と過去をあらわす「タ」は、時制をもたない文においてそれぞれ進行相と完了相をあらわすことを示す。

章見出しは太字

要旨と本文の上に1行改行<必須>

1字下げインデント

1. 日本語主節のテンスとアスペクト

日本語のテンスには、過去形（タ）と非過去形（ル）があり、アスペクトには完成相（スル、シタ）と継続相（シテイル、シテイタ）がある（鈴木 1957、奥田 1977）。言語によっては、進行と完了が異なるアスペクト形式であらわされるが、日本語においては同じ形式であらわされているため、進行と完了の両方を含む継続相が完成相と対立する形である¹。例えば、英語においては進行は(1a)で見るとように **be** と動詞の **ing** 形、完了は(1b)で見るとように **have** と動詞の過去分詞形という異なる形式であらわされるが、日本語では(2a)、(2b)で見るとように、同じシテイルという形式であらわされる。

<例文の前後の改行はオプション>

1(a) She is running.

(b) She has already run this course twice.

以下続くサンプル

以下続くサンプル

以下続くサンプル

以下続くサンプル

注は脚注、括弧なし

¹ 完了(Perfective)と完成(Perfect)というアスペクトに関わる概念は、混同されることも多いが、ここでは Comrie (1976)の区別に従う。

本文サンプル
本文サンプル

参考文献の前に1行改行<必須>

題字は太字

参考文献

奥田靖雄 (1977) 「アスペクトの研究をめぐって」 宮城教育大学『国語国文』8号 (奥田 1984、pp.105-143 に再録)

—— (1984) 『ことばの研究・序説』 むぎ書房

金田一春彦 (1950) 「国語動詞の一分類」 『言語研究』15 (金田一編 1976、pp.5-26 に再録)

金田一春彦編 (1976) 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房

工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』 ひつじ書房

工藤真由美 (2002) 「日本語の多様性へのまなざし —空間表現・時間表現・待遇性—」 国語学会 2002 年度秋季大会予稿集、pp.1-8

鈴木重幸 (1957) 「日本語の動詞のすがた (アスペクト) について—～スルの形と～シテイルの形—」 金田一編(1976)、pp.63-81 所収

—— (1958) 「日本語の動詞のとき(テンス)とすがた (アスペクト) について—～シタと～シテイター—」 金田一編(1976)、pp.83-95 所収

高橋太郎 (1973) 「動詞の連体形『する』『した』についての一考察」 『国立国語研究所論集4 ことばの研究 第4集』国立国語研究所、pp.101-132 (高橋 1994、pp.58-88 に再録)

—— (1994) 『動詞の研究 動詞の動詞らしさの発展と消失』 むぎ書房

寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味 II』 くろしお出版

丹羽哲也 (2001) 「連体修飾節のテンスとアスペクト」 『月刊言語』30-13、pp.56-62

Comrie, B. (1976) *Aspect*. Cambridge University Press.

3字下げ
インデ
ント